

# NEXCO東日本の ケースメソッド研修

NEXCO東日本 執行役員  
管理事業副本部長兼保全部長  
千田洋一

## ケースメソッドを採用したPM研修(1/3)

- 経緯  
平成25年度、プロジェクトマネジメント研修(PM研修)にケースメソッドを採用
- 背景  
建設現場の縮小  
若手の建設事業の経験機会が縮小  
経験豊富な多くの社員が定年退職  
座学研修の限界

## ケースメソッドを採用したPM研修(2/3)

- 目的  
プロジェクトマネジメントの修羅場をケースメソッド研修で疑似体験することでマネジメント力を育成
- 研修プログラム
  - PM研修Ⅰ 技術系新入社員
  - PM研修Ⅱ 3年目技術系社員
  - PM研修Ⅲ 5～15年目技術系社員
  - その他 工事長会議、所長会議等でもケース教材を活用して討議
- 研修講師の役割
  - ケース教材の作成(自身の経験業務)
  - ケースメソッド研修のファシリテータ

# ケースメソッドを採用したPM研修(3/3)

- 研修の方法

受講者は、1班4～6名 × 3～4班(12～24名)  
個人演習、グループ討議、全体討議の流れで実施

- ケースの例

工程遅延発生への対応  
市街地工事における住民からの苦情対応  
埋設ケーブル切断事故発生への対応  
過去に経験のない大規模工事のリスクマネジメント  
工事中事故発生への対応  
観測史上最高の大雪に伴う大規模立ち往生車両発生への対応

- 効果

受講直後のアンケート結果

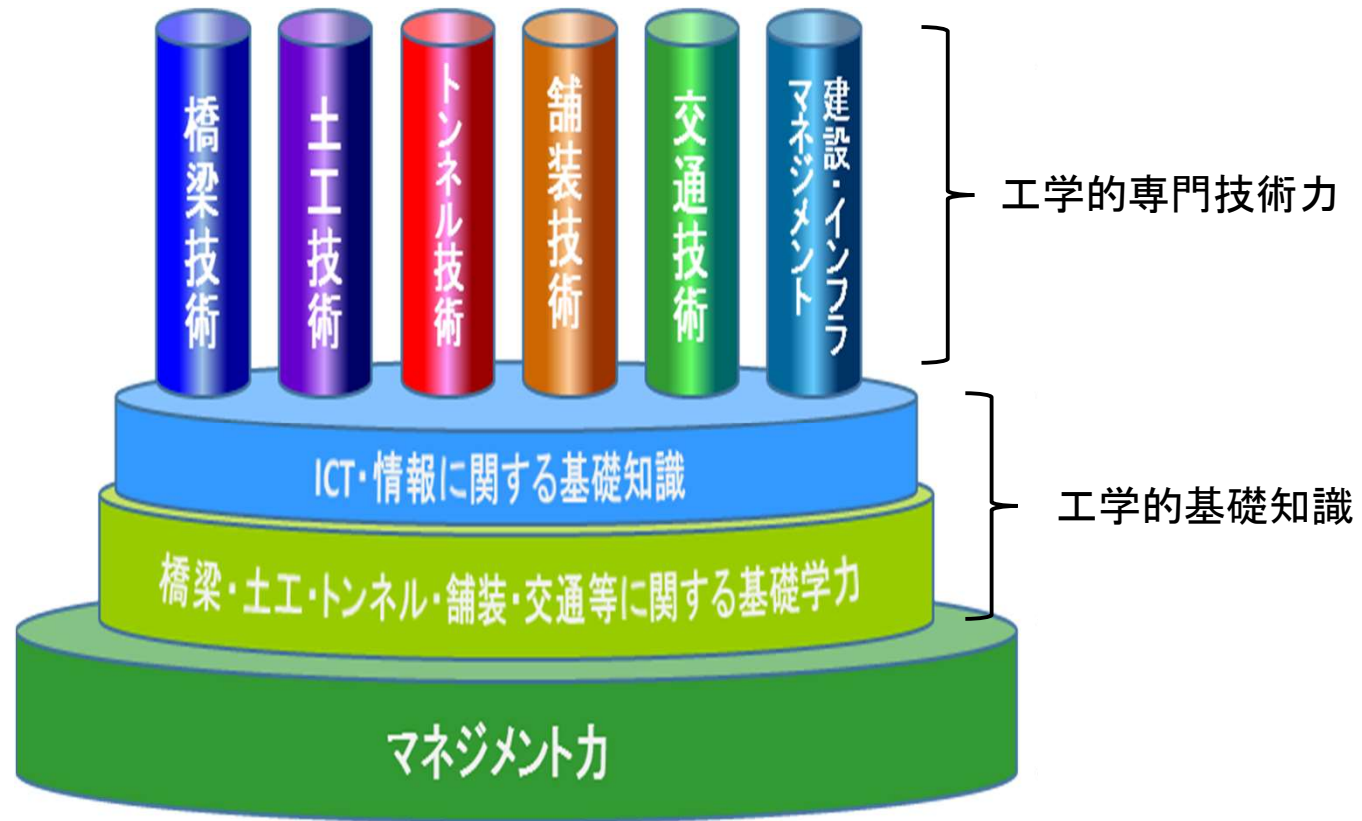
⇒気付きの発見、業務への活用に意欲的など概ね良好

受講半年～1年後のアンケート結果

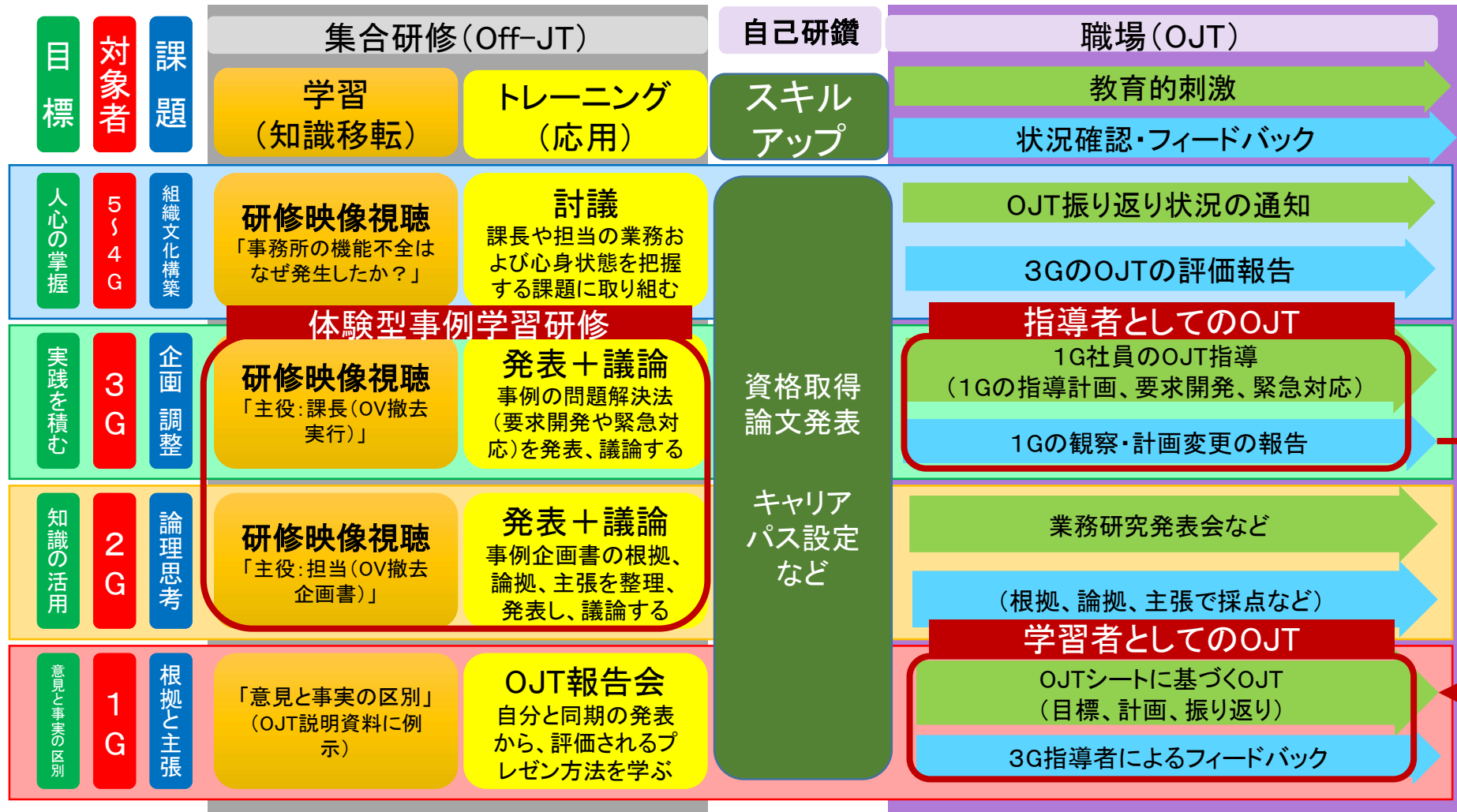
⇒研修で習得したノウハウは業務に余り活用されず

# NEXCO東日本の技術者に必要な技術力

(概念図)



# NEXCO技術者のマネジメント力育成の体系



# 映像視聴による体験型事例学習

## 反転学習



①事例の状況  
(映像1+関連資料)  
を事前に視聴する

②ワークシート1  
に記入する



## 集合研修前半



③集合研修でワーク  
シート1の内容を發  
表し、議論する

## 集合研修後半



③映像1,2を視聴



④ワークシート2に記入



⑤ワークシート2の発表と議論



⑥映像3を視聴  
(以降、繰り返し)

# 体験型事例学習

## 体験事例：高速道路を横過する跨道橋撤去

### 〈跨道橋〉

上部工式：

PC2径間連続箱桁

下部工式：

(橋台) 控え壁式

(橋脚) 鋼製パイルベント

橋長：64.12m

幅員：5.6m

竣工：昭和49年12月

重量：750t (11.8t/m)



(写真：資料「橋梁設計検討業務 跨道橋撤去計画」より転載)



# 課題と今後の方向性

- 課題

- ① ケースメソッド研修が定着するもマンネリ化の傾向
- ② 研修効果は講師の能力に依存、個人差あり
- ③ 研修によるマネジメント力向上効果は検証が必要

- 今後の方向性

- ① 研修効果を検証し、継続的な改善が働く仕組みの構築
- ② 講師の育成、OJT指導者の育成
- ③ 土木学会方式の採用